

教宣 せぶん

時代の天罰

私たちは、組合費のチェックオフを始めとした便宜供与に関わる組合差別を都労委へ申し立てていますが、この問題はいよいよ「証人尋問」へと移っていきます。私たちの証人として、東海支部の前委員長が証人席に立ってくれます。12日の都労委での要請行動で、前委員長は私たちの前で紹介されました。挨拶に立った前委員長は「分裂を策動した40年前にも東海経営は今回とまったく同じ組合差別を行った。どうしてこの経営は同じ過ちを繰り返すのか。いずれにしても当時のことも含めてきっちり証言する」と言ってくれました。その言葉の端々に、東海経営が繰り返した組合差別に勝利している「余裕」と「自信」を感じました。東海経営は40年経ったいまでも、まだこうした稚拙な差別行為を繰り返しているのかという、東海経営に対する一種あきれた感情がその短い言葉の中に滲んでいました。こうして見ていくと、東海経営という存在は、組合差別だとわかっていてこのような行為を繰り返しており、もし私たちが泣き寝入りすれば儲けもの、都労委などから是正命令を受ければその時は改めれば良い、と安易に思っている節があります。そういった意味では、私たちの力を値踏みしているのかもしれない。

しかし、時代は40年前とは違います。私たちが勤めるこの会社は、法令順守を経営方針の第一に掲げ、国連のグローバルコンパクトに宣言もし、人権や地球環境を大切にす企業だということを内外に大々的に宣伝しています。またこうした組合差別を指示しているこの企業のトップは、NHKの要職も兼務し、日本損害保険協会の会長の要職にも就こうとしています。組合費のチェックオフや便宜供与など、誰の目から見てもわかる組合差別を行っているこの企業のトップが、誰の目から見てもわかる組合差別の指示を出しているこの企業のトップが、そんな要職に就く資格があるのでしょうか？

もし私たちの力を値踏みしてこのような誰の目から見てもわかる組合差別を安易に繰り返しているとしたら、40年前にはセクハラでクビになる社員がいなかったのが、現代では当たり前のようにクビになっていくのと同じように、時代の天罰が落ちるはずですよ。